

シグマ委員会会合から

以下に示すのは、シグマ委員会会合の議事録です。メーリングリスト JNDCmail でも議事録が配布されます。また、核データ評価研究グループの WWW から、シグマ委員会の会合予定や議事録を見ることができます。

核データ専門部会 高エネルギー核データ評価WG

2008年2月26日(火) 13:30~17:00
原子力機構 システム計算科学センター大会議室
出席者 12名

配布資料:

- HE-07-01 クラスタ生成断面積の評価方法及び評価への適用(国枝委員)
- HE-07-02 JHE2007 へのコメント(小迫委員)
- HE-07-03 JENDL/HE ファイル化の現状(深堀委員)
- HE-07-04 JENDL/PD ファイル化の現状(深堀委員)
- HE-07-05 平成19年度活動報告・平成20年度活動計画(深堀委員)

議事:

1. 前回議事録確認
「高エネルギー核データ評価 WG 平成18年度第1回会合議事録(案)」の確認を行い、承認された。

2. 評価について

2.1 国枝委員

配布資料 HE-07-01 を用いて、クラスタ生成断面積の評価方法及び評価への適用について報告があった。フォールディング模型を用いることにより、単純なアジャストでクラスタ粒子光学ポテンシャルを表現することができる。また、岩本・原田・佐藤模型の導入により、クラスタ粒子スペクトル(特に、Pb, Bi 等の重い核種に対し)の再現性が飛躍的に向上することがわかった。

2.2 小迫委員

配布資料 HE-07-02 を用いて、JENDL/HE-2007 に関するコメントを小迫委員が報告した。一般的に断面積に関して、断面積の値だけでなく形状に関しても 20 及び 200MeV 近傍で不連続がある。JAM/JQMD の精度だけでなく、GNASH は 200MeV を上限とすることを検討した方がよい。最低限、アンフォールディングによるスペクトルの不連続ピークを避けるためにも 200MeV 近傍の不連続点を取り除くなどの対応が必要である。このため、核破碎生成物断面積の系統性に関して、渡辺委員及び中島委員が調査することとした。

加速器による BNCT 用小型中性子源に関して、Li, Be は重要であるので、急いだ方がよい。また、JENDL/HE の普及に関して、PHITS にバンドルするために、電子線及び γ 線の原子相互作用データについて MCNP ライブラリに追加できるかどうか、検討することとした。

2.3 村田委員

^{15}N 及び ^{18}O の評価についての報告があった。実験値のサーベイを行った結果、 $^{15}\text{N}+p$ の共鳴データは存在した。これとともにデータの無いところは逆反応から詳細釣り合法を用いて推定した。連続領域は GNASH による計算値を用いる予定である。

技術継承の観点から、共鳴解析などについて原子力機構での講義を検討することとした。

3. 高エネルギーファイル関連ファイルの作業進捗状況について

配布資料 HE-07-03, 04 により、現在のファイル化進捗状況について報告があり、現状を確認した。JENDL/PD については、 ^3He , ^{12}C , ^{55}Mn , ^{181}Ta , $^{182,184}\text{W}$ に断面積格納上の不具合や MCNP ライブラリ処理の際の問題点があることがわかったので、改訂を予定している。KAERI ファイルから JENDL/PD-2004 に入っていない 107 核種を追加する予定であり、レビュー作業の準備をしている。

4. H19 年度活動報告・H20 年度活動計画について

深堀委員より配布資料 HE-07-05 を用いて、JENDL/HE、JENDL/PD 及び JENDL/PK の現状の報告、本 WG の H20 年度活動計画(案)についての提案があった。JENDL/HE-2007 を公開したので、これに合わせて論文も準備する。JENDL/PD については、2004 年版からの追加核種(KAERI ファイルの採用)及び改訂核種を格納し、できるだけ早急に公開を検討する。JENDL/PK に関しては、JENDL/HE の進捗にしたがって、上記ファイルより遅れて作業を行うこととした。

JENDL/HE-2007 以降の高エネルギーファイルに関する作業として、特に、

- ・核種生成断面積の 20 及び 200MeV 近傍の不連続点の解消を検討する。
- ・上記に関連して、核破碎生成物に関する断面積のシステムティクスを調査し、可能であればファイルに取り込む。
- ・JAM/JQMD の再計算を含めた各評価の改訂を検

討する。

- ・ MCNP ライブラリについて、PHITS にバンドルするために電子及び光子の原子相互作用ファイル（ライブラリ）について調査し、総合的に JENDL としてバンドルできるように検討する。

等を確認した。

5. その他

深堀委員の異動に伴い、渡辺委員が 2008 年度から本 WG のリーダーとなることが承認された。

次回は未定である。

品質保証検討グループ

2008 年 3 月 21 日（木）14:00～17:00

東京工業大学 原子炉工学研究所

出席者 7 名

配布資料：

0. 前回来合議事録（案）

1. JENDL の品質保証のあり方（提言）（案）（山野委員）

議 事：

1. 前回来合議事録（案）の確認がなされた。

2. 山野委員より資料 1 に基づき、JENDL の品質保証のあり方（提言）（案）について説明があり、内容について検討・議論が行われた。

- ・ JENDL の品質保証のあり方に関して核データ評価研究グループに提言を行う。
- ・ 目標、対象組織、適用範囲、品質マネジメントシステム（QMS）の構築と運用を提言する。
- ・ 品質マニュアルに記載すべき内容として、品質方針、品質目標、適用範囲、プロセス及びプロセス・プロセス間の相互関係、QMS の PDCA サイクルにおける内部監査、不適合対応、継続的改善を含めた提言を行う。記録及び記録管理の手順についても提言をまとめる。

3. 石川委員より、積分検証用の炉心ベンチマークデータには、公開できない資料がある。公開されたものだけに限定するのは問題があるとのコメントがあり、検討議論した。透明性と追跡可能性（トレーサビリティ）を考慮すると、公開資料や公開データが理想的ではあるが、ベンチマーク問題化した時の詳細データなど、可能なものは、参考資料として関連性について記録管理することとする。非公開の参考資料そのものは公開する必要はない。

4. 奥村委員より、評価プロセスやベンチマーク計算データなどをすべて公開するのは、研究者のノウハウを取られるのではないかと危惧が述べられた。基本的には採用したデータや手法について、現在の MF-1 のコメントファイルにも記載されているものが多い。ノウハウに関わるすべての情報を記載でき

るわけではないし、逆に隠すことが得策とも思えない。透明性と追跡可能性（トレーサビリティ）の観点からも、知識の伝承の観点からも、事実（Fact）は記載すべきである。膨大な知識データベースは、いたずらに一般公開するのではなく JAEA がきちんと管理すればよい。公開請求があれば、その時点での公開の諾否を JAEA が留保することで、ノウハウがみだりに漏洩することはない。

5. 内部監査や継続的改善など、組織体制について JENDL-4 では時間的制約等のため実現できないのではないかとの意見があった。これに関しては、本提言は JENDL-4 を直接的なターゲットとしたものではなく、今後の JENDL の品質保証に関する提言である。組織体制等の充実については、本提言を受けて JAEA 内部で検討し可能なものから順次実現すべきものである。次の中期計画で考慮することも視野に入れてはどうかとの結論となった。

6. 欠席の委員には、本提言案を品質保証検討メーリングリストに流したので、意見やコメントを求め、本メーリングリストでさらに検討議論することとした。意見・コメントは 3 月末を一応の締め切りとするが、4 月末までは意見聴取を行い、平成 20 年度の早い時期に提言をまとめることで意見の一致が得られた。意見交換は本メーリングリストを用いて行うこととした。

7. 柴田委員より、平成 20 年度も本検討グループを継続する予定であることが説明され、19 年度委員は継続して提言案の検討及び策定を実施することとした。

（参考）A グループ：吉田、瑞慶覧、柴田、岩本
B,C グループ：山野、中島、上松、田原、須山、奥村、石川

次回予定：未定

次回予定議題：

JENDL の品質保証のあり方（提言案）の策定。
その他

炉定数専門部会

リアクター積分テストWG

2008 年 3 月 5 日（月）13:30～17:40

原子力機構 東京事務所 12 階第 1 会議室

出席者 16 名

配付資料

RIT-07-1： 会合 Agenda（石川、2/26 付けメール）

RIT-07-2： 前回（07.3/5）議事録（石川）

RIT-07-3： REBUS 及び FUBILA の今年度解析（山本徹）

RIT-07-4： Integral Test for JENDL-4（奥村）

RIT-07-5： MISTRAL 炉心 1 と炉心 2 の感度解析（その 2）～JENDL-3.3、ENDF/B-VII.0、

- JEFF-3.1の比較～(北田)
- RIT-07-6: U-238 共鳴パラメータの比較 (岩本)
- RIT-07-7: BWR 模擬ピンセル体系の感度解析について (その2) (小坂、藤原)
- RIT-07-8: 断面積ライブラリー更新に伴う BWR 燃料燃焼特性への影響 (山本宗也)
- RIT-07-9: JENDL における熱中性子の散乱則の扱い (石川)
- RIT-07-10: FCA 実験の積分テスト (岡嶋 (代読、千葉))
- RIT-07-11: 低減速軽水炉体系での ENDF/B-VII.0 ベンチマーク (秋江)
- RIT-07-12: JENDL High Energy ファイルと JENDL-3.3 の ADS への適用比較 (佐々)
- RIT-07-13: TCA での Am サンプル反応度測定試験の解析 (山本徹)

議事

1. 前回議事録の確認

石川委員から、資料 07-02 を用いて前回 (07. 3/5) の議事録確認及びアクションリストの対応状況整理が行われた。

<アクション 06-1> JNES がこれまで系統的に解析を行ってきた PWR30%MOX 炉心のための EPICURE 試験、高減速フル MOX 炉心 (一様、PWR 模擬) のための MISTRAL 試験、高減速フル MOX 炉心 (BWR 模擬) のための BASALA 試験、 UO_2 の燃焼効果測定のための REBUS 試験、高燃焼度 BWR MOX 炉心のための FUBILA 試験の中から、特徴的なものを選定し、昨年 12 月に公開された ENDF/B-VII.0 で MVP 解析を行い、JENDL-3.3 等との比較を行う (追記: 本 WG 後の調整で、FUBILA、REBUS 炉心の解析は JNES が行い、MISTRAL、BASALA 試験については JAEA 奥村氏が解析することとなった)。→資料 RIT-07-3、4 を用いて、本日報告する。

<アクション 06-2> 今回の感度解析を、ENDF/B-VII.0 及び JEFF-3.1 に対しても行い、計 4 つのライブラリーの差異の核種・反応・エネルギー寄与を分析する。→資料 RIT-07-5 を用いて、本日報告する。

<アクション 06-3> 今回のライブラリー間の差異は、U-238 の無限希釈断面積ではなく、共鳴による自己遮蔽の効果と考えられるので、岩本氏が、上記 3 つのライブラリーの U-238 の共鳴パラメータを調査する。→資料 RIT-07-6 を用いて、本日報告する。

<アクション 06-4> 今回の感度解析を、ENDF/B-VII.0 (06 年 12 月公開の最終版) に対しても行い、ライブラリーの差異の核種・反応・エネルギー寄与を分析する。→資料 RIT-07-7 を用いて、本日報告する。

<アクション 06-5> 議論の中で、熱中性子の散乱則

($S(\alpha, \beta)$) が、ENDF/B-VII.0 では改訂されており、これが k_{eff} に約 0.1% Δk の効果があることが指摘された。従来から、日本のシグマ委員会では、 $S(\alpha, \beta)$ は評価できないとして、JENDL ライブラリーには含めておらず、各ユーザーが ENDF などから自分の判断で引用する慣例であったが、ライブラリーの完全性という観点から、やはり核データの専門家が、推奨値を決めるべきであるとの結論になり、石川が評価側との調整にあたることになった。→資料 RIT-07-9 を用いて、本日報告する。

<アクション 06-6> 奥村氏は、SRAC2006 及び炉定数が RIST に登録され、ユーザーが入手できるようになったら、ML で周知する。→奥村氏から送られたメール[tokai-ndc-rit:00062]で、完了している。

<アクション 06-7> 前回と今回の FCA 解析結果について、感度解析を行い、ライブラリー間の差異のメカニズムを、核種・反応・エネルギーで分析する。→資料 RIT-07-10 を用いて、本日報告する。

<アクション 06-8> 本 WG における阪大とテプコンシステムズの報告から、今回の U-235 捕獲断面積の問題は、軽水炉にも大きな影響があることが判明したので、データを整理して、岩本氏が 4 月に NEA で報告する材料の一つとして準備することになった。→キャンセル。

2. REBUS 及び FUBILA の今年度解析

山本徹委員から、資料 07-3 を用いて、JNES が ENDF/B-VII.0 を用いて行った UO_2 の燃焼効果測定のための REBUS 試験 (2000~06) の新燃料 (UO_2 燃料) の臨界性解析、及び、高燃焼度 BWR MOX 炉心のための FUBILA 試験 (2005~06) の、(1)軸方向ボイド炉心、(2)B4C 制御棒炉心、(3)Gd 入り燃料棒試験、(4)9×9 基準炉心 (17 ヶ月経過) の解析結果が、他ライブラリーと比較して報告された。

REBUS 試験の新燃料の臨界性については、ENDF/B-VII.0 は 1.0 に近く、JENDL-3.2 と同様の値であり、ENDF/B-VI.8 と比べると 0.8% Δk 高い。FUBILA 試験の臨界性については、ENDF/B-VII.0 は、0.5% Δk の過大評価であり、他のライブラリーと比べて 0.5~0.6% Δk 高い。また、いずれのライブラリーについても、 k_{eff} のドライバー燃料本数に対する傾きが見られるが、これは Am の核データの影響ではないかとの見解であった。

3. MISTRAL 及び BASALA の今年度解析

奥村委員から、資料 07-4 を用いて、MISTRAL と BASALA 炉心の臨界性を解析した結果が報告された。ENDF/B-VII.0 よりも、本年 3 月に公開される JENDL アクチノイドライブラリーの方が、予測精度が良いとのことである。

<アクション 1> JENDL アクチノイドライブラリーによる解析を早急に実施する必要があるが、

FUBILA 炉心等の MVP 入力を JNES から JAEA に連絡するので、JAEA において解析を実施する。

4. MISTRAL の炉心 1 と 2 の感度解析 (その 2)

北田委員から、資料 07-5 を用いて、MISTRAL の炉心 1 (U-235、3.7wt%) と炉心 2 (MOX、7.0wt%Pu-total) の SAINT-II コードを用いた感度解析を行い、ライブラリー間の差を分析した結果が報告された。MISTRAL の炉心 1 については、JENDL-3.3 と ENDF/B-VII.0 の臨界性の差は U-238 の捕獲断面積の差のみに起因していること、MISTRAL の炉心 2 については、U-238 の捕獲断面積の他に、Pu-240 の捕獲や Am-241 の捕獲が相殺しているなどの結果が得られた。ただし、U-238 捕獲や Pu-240 捕獲は無限希釈断面積にはライブラリー間の差がないので、SRAC 断面積の自己遮蔽因子の計算方法の違いである可能性もありことが指摘された。

<アクション 2> 今回の感度解析を、SRAC コードの PEACO オプションを用いて再検討する。

5. U-238 の共鳴パラメータのライブラリー間比較

岩本委員から、資料 07-6 を用いて、JENDL-3.3、ENDF/B-VII.0、JEFF-3.1 の U-238 共鳴パラメータの出典を調査した結果が報告された。JENDL-3.3 は、Moxon (1988) であり、ENDF/B-VII.0 と JEFF-3.1 はどちらも、Derrien (2004) であるが、ENDF の方が新しい評価である。JENDL-3.3 の共鳴領域 (20keV まで) の捕獲断面積は、ENDF/B-VII と比べると、1~2% 小さい。

6. BWR 模擬ピンセル体系の感度解析について

小坂委員と藤原氏から、資料 07-7 を用いて、感度解析手法・コードの最近の動向調査、及び BWR 模擬ピンセル体系に対して ORNL の TSUNAMI コードと阪大の SAINT-II コードを適用して比較した結果が報告された。結果として、両者は全体的にはほぼ同じ感度解析結果 (0.1% Δk 程度の差) を示したが、水素、酸素、U-238 の弾性散乱断面積で差がみられることが分かった。これに対して、SAINT-II で弾性散乱方向余弦の感度を計算していないためではないかとの意見があった。

<アクション 3> TSUNAMI コードは、多群モンテカルロ計算を行って、自己遮蔽による Implicit sensitivity も算出しているとのことであるが、具体的にモンテカルロ計算からどのように感度係数を計算しているのか、公開文献をベースに調査する。

7. 断面積ライブラリー更新に伴う BWR 燃料燃焼特性への影響評価

山本宗也委員から、資料 07-8 を用いて、核データライブラリーを、ENDF/B-VI.8 から ENDF/B-VII.0 に変更した場合の、BWR の燃焼反応度への影響に関する報告があった。この変更により、燃焼反応度が

かなり大きく変わったが、その原因は主に、U-238 の低エネルギー捕獲、Pu-241 の熱エネルギー捕獲、O-16 の(n, α)、水素 (bound in H₂O) の熱中性子散乱則によると考えられるとのことである。なお、JENDL-3.3 の結果は、ENDF/B-VI.8 の方に近い。これらのことから、軽水炉ベンチマークでは、臨界実験だけではなく、燃焼特性への影響も評価する必要があることが提言された。

8. JENDL における熱中性子散乱則の扱い

石川委員から昨年度のアクションとして、資料 07-9 を用いて、熱中性子束の散乱則を JENDL-4 に入れてもらうように、JAEA の核データ評価研究 Gr に依頼したやりとり経緯の報告があった。結果として、核データ評価研究 Gr からの賛同を得ることはできなかった。

<アクション 4> 軽水炉ユーザーから、熱中性子束の散乱則を JENDL-4 に入れる要望が強いこと、どれがベストである等という技術的判断は無くてもよいことを、核データ評価研究 Gr に伝えて、再度要望する。この交渉担当は、田原委員とし、山本宗也委員と奥村委員が、メールベースでの議論に参加して支援する。

9. FCA 実験の積分テスト

千葉氏が、資料 07-10 を用いて、これまでの FCA 解析結果について、感度解析を行い、ライブラリー間の差異のメカニズムを、核種・反応・エネルギーで分析した結果を報告した。この中で、現在の Cr-52 の共分散は大きすぎる可能性があることが指摘された。

10. U-235 捕獲断面積の検討進捗

岩本氏が、口頭で、昨年 3 月以来の、OECD/NEA での U-235 捕獲断面積の検討の進捗を報告した。関連する積分実験としては、従来の BFS 臨界実験、FCA-IX 臨界実験に加え、ZPPR-18A の制御棒価値、米国 zeus 中速エネルギー実験が評価されたが、やはり、現在の U-235 捕獲断面積に問題があることを示唆した。微分側の検討としては、ORNL の Luiz Leal 氏が JAEA の核データ評価研究 Gr に招聘され、2 週間の予定で現在、感度解析や SAMMY コードでの検討を進めている。JAEA 側の共同作業者は、岩本修氏、中川庸雄氏、千葉豪氏である。

11. JENDL アクチノイドファイルのベンチマーク

奥村氏が、資料 07-4 を用いて、この 3 月に公開が予定されている JENDL アクチノイドファイルのベンチマーク解析を、軽水炉及び高速炉について行った結果を報告した。非常に豊富なデータが示されたが、結論として JENDL アクチノイドファイルは、ENDF/B-VII.0 よりも、予測精度は優れているとされた。

12. 低減速軽水炉体系での ENDF/B-VII.0 ベンチマ

ーク

秋江氏から、資料 07-11 を用いて、低減速軽水炉体系に ENDF/B-VII.0 を適用した結果が報告された。その結果、JENDL-3.3 との差は、BOL の k_{eff} で 0.5% Δk 、EOL の k_{eff} で 0.1% Δk であり、比較的良く一致していることが分かった。以前の ENDF/B-VI.8 と JENDL-3.3 の差は大きかったが、今回の変化の原因は、U-238 の非弾性散乱断面積の改訂である。

13. JENDL High Energy ファイルと JENDL-3.3 の ADS への適用比較

佐々氏から、資料 07-12 を用いて、JENDL High Energy ファイルの 20MeV 以下を ADS 体系に適用すると、JENDL-3.3 に比べて 0.15% Δk 差が出ることが報告された。両者は、同一なはずだが、原因が分からないとのことである。WG メンバーは、もし思いつく点があれば、ML に投稿するように依頼された。

14. TCA での Am サンプル反応度測定試験の解析

山本徹氏から、資料 07-13 を用いて、JAEA との共同研究として TCA で行われた Am サンプル反応度試験の解析結果が報告された。JENDL アクチノイドファイルでは、まだ予測は悪く、Am-241 の捕獲断面積を 20~30%大きくすると、サンプル反応度の C/E が改善するとのことである。岩本氏から、核データ評価研究 Gr にこの情報を伝えてもらうこととした。

15. 今後の予定

本日のアクション結果の報告や議論については、WG のメーリングリスト上で行う。H20 年度は、シグマ委員会の予算に依存して、1~2 回の会合を持ちたいが、各機関の作業の進捗を確認した上で調整する。

Shielding 積分テストWG

2008 年 3 月 17 日 (月) 14:00~17:00 東京工業大学 原子炉工学研究所 出席者 7 名

配布資料 :

- SB-07- 0: 前回会合議事録 (案)
- SB-07- 1: Integral Test of JENDL-3.3 with Shielding Benchmarks [山野委員]
- SB-07- 2: Table 1 Detailed Description of sample piles [市原委員]
- SB-07- 3: OKTAVIAN benchmark figures [市原委員]
- SB-07- 4: FNS benchmark figures [佐藤委員 : 山野代読]
- SB-07- 5: 2007 年度活動報告及び 2008 年度計画 [山野委員]

議 事 :

- 1. 前回会合議事録 (案) の確認がなされた。

2. 山野委員より資料 SB-07-1, SB-07-2, SB-07-3, SB-07-4 に基づき、JENDL-3.3 の遮蔽積分テスト報告書の内容について議論した。報告書は英文とし、JAERI-Review 等で発行を目指す。著者名は、N. Yamano, C. Ichihara, K. Ueki, M. Matsumoto, F. Maekawa, C. Konno, Y. Hoshiai, K. Sasaki, T. Nishitani, O. Sato, S. Maeda, Y. Ohkawachi, M. Kawai, A. Hasegawa とする。所属は積分テスト検証時のものを採用し、必要があれば現所属を脚注に記載する。原稿とりまとめは山野グループリーダーが行う。付録には、ベンチマーク解析に用いた入力データ、計算結果と実験結果の比較データ及び特別に作成したサブルーチン等についての情報を掲載することとし、とりまとめを前田委員が行う。内容の検討が行われ、目次を下記のように変更することが決められた。

- (a) Li, LiF, TEFLON, As, Se の OKTAVIAN の結果を追加する。
- (b) 原稿、データの取りまとめを山野グループリーダーが行い、執筆担当者に確認のうえ夏までに最終稿を完成させる。

1. Introduction [山野]

2. Integral Test Method [山野]

2.1 Method for Integral Verification [山野]

2.2 Benchmark Problems [ベンチマーク問題毎にまとめる。各担当者 (3 章各節の筆頭担当者)]

2.3 Cross-Section Processing and Generation [山野、今野 (群定数部分)]

3. Results

3.1 Lithium [市原]

3.2 Oxygen [今野 (前川)]

3.3 LiF and $(CF_2)_n$ (TEFLON) [市原]

3.4 Sodium [植木、松本、山野、佐々木、今野]

3.5 Aluminum, Li_2AlO_3 and $LiAlO_2$ [今野 (前川) 、市原]

3.6 Silicon and SiC [市原、今野 (前川)]

3.7 Titanium and Li_2TiO_3 [市原、星合、今野 (前川)]

3.8 Vanadium [今野 (前川) 、松本]

3.9 Chromium [市原、星合]

3.10 Manganese [市原]

3.11 Iron [山野、佐々木、星合、植木、今野]

3.12 Cobalt [市原、星合]

3.13 Nickel, SS304 and SS316 [佐々木、植木、松本]

3.14 Copper [今野 (前川) 、市原]

3.15 Arsenic [市原]

3.16 Selenium [市原]

3.17 Zirconium, Li_2ZrO_4 [今野 (前川) 、市原]

3.18 Niobium [市原、星合]

3.19 Molybdenum [市原]

3.20 Tungsten [今野 (前川) 、市原]

3.21 Mercury [今野 (前川)]

4. Discussions

4.1 Problems for each nuclide 【各担当者】

(市原→Li, F, Si, Ti, Co, Cr, As, Se, Nb, Mo, Mn) (今野→Cu) (佐々木→Ni) (山野→Na, Fe) (今野(前川)→O, Al, V, W, Hg)

4.2 Issues to be resolved 【山野】

5. Conclusion 【山野】

Acknowledgement 【山野】

References 【山野】

Appendix Calculation Data for Benchmark Problems 【前田】

- 各ベンチマーク解析に用いた、mcnp, anisn, dort, dot 等の入力データを掲載する。
(リスト形式が良い。CD-ROM 添付または JNDC の Web サーバーに格納?)
- ベンチマーク実験データ
(リスト形式が良い。CD-ROM 添付または JNDC の Web サーバーに格納?)
- ベンチマーク計算用ルーチンのソースコード

ベンチマーク計算で実際に使用した専用プログラムのソースコードを提供する。

(例: mcnp の tally.d.f の改訂、JASPER 解析における線源発生ルーチン等)

3. 資料 SB-07-5 に基づき、平成 20 年度活動について議論した。大川内委員より前田委員に変更する。西谷委員、寺田委員が退任する。市原委員の所属変更を行う。その他、原子力学会の標準委員会に対する意見交換と議論が行われた。

次回会合予定： 未定

次回予定議題：

JENDL-3.3 遮蔽積分テスト報告書原稿の検討 (各担当委員)

その他